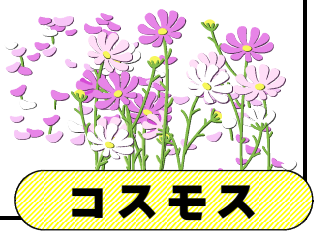
令和４年度　小中野小学校　学校だより　第８号　　令和４年１０月２７日

ちぐさ咲く　みち



本の楽しさが子どもの心に沁みこんでいく

校長　花生　典幸

１０月１５日（土）には，たくさんのご来賓・保護者のみなさまにおいでいただき，今年度の「学習発表会」を無事開催することができました。ご協力に心より感謝申し上げます。

子どもたちは，練習の成果を十分に発揮し，これまでで最高の歌や演奏，演技を披露してくれました。多くの方々から，温かい拍手やお褒めの言葉をいただき，大きな満足感を得ることができ，それぞれに自信を深めることができました。

さて，早いもので今年のカレンダーもあと二枚となり，秋も日一日と深まりを見せています。大きな学校行事を終えたこれからの時期は，**勉強や読書といった「頭づくり」に力を入れる**期間にしたいと考えています。

絵本に出てきた，王子様も，キリギリスも，お化けも，オオカミも，
みんなやさしい声でした。

上のフレーズは，しばらく前にテレビコマーシャルで流れていた言葉ですが，覚えていらっしゃいますか？

このやさしい声の正体は，お母さん（お父さんの場合もあるかもしれませんが）です。お母さんが，子どもの枕元で絵本を読んで聞かせてくれている時の声なのですね。

「読み聞かせ」は，今，その重要性がさまざまな場面で強調されています。

ある調査によると，就学前から小学低学年までに，「家族から昔話を聞いた」，「本や絵本の読み聞かせをしてもらった」などの読書経験が，子どもたちの現在における〈興味・関心〉や〈社会性〉，〈文化的作法・教養〉を育むのによい影響を与えるということが明確にわかっているのだそうです。また，就学前から中学時代までに読書活動が多い高校生ほど，**〈未来志向〉で，〈自己肯定感〉や〈論理的思考〉など多くの項目において，意識・能力が高くなる**という結果が出ているそうです。

「読み聞かせ」，そして「読書」，奥が深いですね。

さて，先ほどのコマーシャルには，次のようなフレーズが続きます。

声を通して，本の楽しさが子どもの心に沁みこんでいく。

ご存じの方も多いと思いますが，**本校では今年度より，毎月1回，朝8時からボランティアの方々を12名お願いして，各学級での「読み聞かせ」の活動を続けてきております。どの方の読み聞かせもとてもレベルが高く，本の楽しさを，子どもたちの心に深く沁みこませてくれています，その有意義な時間を楽しみにしている子どもたちがたくさんいます。**毎回調整してくださっているコーディネーターの方々も含め，貴重な機会をもてていることに感謝の気持ちでいっぱいです

秋の夜長のひととき，ブッククーポンで購入した本，あるいは子どもたちがお気に入りの本を間において，親子で会話をしてみるのもいいかもしれません。**家庭で子どもたちが本を開いている姿を見かけた時には，すかさずほめて，たくさん励ましてくだされば**ありがたいです。よろしくお願いいたします。